

研究テーマ：玉村町の障がい者福祉の現状と課題



「玉村町障害者福祉センターたんぽぽ」を視察



(左) 古新聞で作る薪 (右) 利用者が作るアクリルたわし

町の障がい者福祉の現状

玉村町における障害者手帳の所有者は、令和8年4月1日現在で身体障害者1343人、知的障害者286人、精神障害者407人となっており、10年前に比べて549人の増加となっている。特に精

神障害者数は、この10年で倍増しており、225人の増加であった。これに伴い、障害福祉サービスの利用者数も増加していて、10年前と比較して、令和8年4月1日現在では18歳未満が143人（101人増）、18歳以上が274人（70人増）となっている。

町には、これらの障がい者に対応するため、訪問系サービス・日中活動系サービス・居住系サービス・障害児通所サービスが展開されている。

これらの障害福祉サービスでは、障がい特性だけでなく、個別のニーズに合わせた取組が必要とされるため、きめ細かい系統のサービスが

社会参加を支える環境整備を

視 委員からは、障がい者数の増加に対する社会全体での支援体制の必要性、親亡き後を見据えた生活支援の充実、さらには通所していない障がい者への支援の在り方などについて意見が出された。

当委員会としては、障害福祉サービス及び就労支援体制のさらなる充実を図るとともに、障がいのある方が地域社会の中で安心して暮らし、積極的に社会参加できる環境整備に引き続き取り組むよう求める。

民生
文教
常任委員会

「誰一人取り残さない」行政の在り方とは…
障がい者福祉の現状を調査

委員長 松本幸喜 副委員長 井上景子 委員 川端悟・笛木美登利・高橋茂樹・浅見武志



玉村町障害者福祉センターたんぽぽ

研究テーマ：老朽化と人口減少を踏まえた町営住宅の現状と課題



平成11年度に建築された八幡第二団地

町営住宅の現状は

町では現在11団地217戸を管理しており、このうち3団地は入居募集を停止し、退去後に順次解体する予定である。入居者は令和8年4月1日時点で135世帯218人で、単身世帯は全体の割合の57%を占めている。そして65歳以上の入居者は43・6%を占めるなど、高齢化が進んでいる。

また、建物の老朽化も進み、修繕費や補修工費が増加している。町では国の交付金を活用し、バリアフリー化や設備更新などの個別改善工事を実施しているが、交付金対象外の補修工事は財政事情から先送りされている状況も示された。

さらに人口減少や民間賃貸住宅の空き状況などを踏まえ、今後どの程度の町営住宅が必要となるのか、建て替えを行うべきかなど、長寿化計画見直しの際に検討していくとの説明を受けた。

人口減少社会を見据えた持続可能な政策を

視 委員からは、町営住宅を取り巻く状況が大きく変化しているとの意見が出された。

以前のような入居待機者が多い状況から変化しており、今後は老朽化した住宅を維持管理するだけでなく、団地の統合や再編、民間賃貸住宅の活用なども含めた検討が必要との意見があった。

また、低所得者や住宅困窮者への支援策として、民間家賃補助制度の導入を視野に入れるべきとの意見や、外国人入居など新たな課題への対応を求める意見もあった。

当委員会は令和9年度に予定している長寿化計画の改定に向け、人口減少社会を見据え、現在のニーズに合った持続可能な住宅政策の検討を求めていく。

総務
経済
常任委員会

委員長 堀越真由子 副委員長 峯岸敬一 委員 嶋田由紀子・羽鳥光博・備前島久仁子・月田均



玉村町HP
「町営住宅入居案内」